

森林インストラクターしずおか 2013年度研修会(二軒小屋)  
実施報告書

1. 日 時：平成25年10月29日(火)～30(水)

2. 場 所：奥大井(二軒小屋)

3. 参加者：会員15名

内野則夫、萩野克美、越智壽美子、増田将、朝比奈恵美子、高橋健三、藤田久男、小嶋 博、栗岡理子、青野ダイチ、早川和男、中川昌昭、矢下 博、杉山雅章(幹事)、小久保 忠嘉(幹事)

4. 実施内容：

【1日目】

- 畑薙第一ダム駐車場に集合、東海フォレストの送迎バスで二軒小屋に13時半に着いた。
- チェックインとオリエンテーションの後、二軒小屋、田代湖周辺で樹木観察を行った。あいにくの小雨だったが、参加者一同あたりが薄暗くなるまで熱心に見て回った。メグスリノキの紅葉が印象的だった。
- 夕食前にミーティング：井上会員(今回不参加)が用意した「DNAによる植物の新分類体系」の資料を配付し、全員で読み合わせた。その後有志でクラフト、パソコン操作などのミニ講習会を行った。
- 6時から夕食。終了後に有志は狭い部屋の二段ベッドに各々陣取り、原発問題から自然保護まで幅広い話題について、小屋の消灯時間まで座談(放談?)会を持った。

【2日目】

- 前日とうって変わって晴天となった。メイン行事となるこの日の樹木観察には、山登りを含むコース(A班)と、平らな林道歩きのコース(B班)の二つが設定された。A班には12名、B班には3名が参加した。
- A班は二軒小屋背面の転付峠まで、樹木観察をしながら往復した。標高～1400mの二軒小屋から峠まで約600mの急登だが、昼食を挟み約5時間をかけてゆっくり往復した。渓谷沿いの小屋周辺から亜高山帯の峠に至る道筋には、針広混交林が広がる。コメツガやウラジロモミに混じって、カエデやカバノキ科の樹木を始め多様な広葉樹が観察できた。またオヒョウの巨木などもあった。峠に登ると雲の上に聳える富士山が望め、また反対側には前日の降雪で薄化粧した南アルプスの山々が見渡せた。
- B班は二軒小屋から樫島まで、大井川の源流地帯に沿った約10Kmの林道を樹木観察しながら歩いた。フサザクラ、カツラ、チドリノキなど谷沿いを特徴づける木々が多かった。周囲の真っ盛りの紅葉の山々を見渡しながら、カツラの落葉の甘い香りに包まれて歩くのは何とも心地の良いものだった。まだ蔓に残ったサルナシやヤマブドウの“おこぼれ”にも与りながら、約5時間をかけてゆっくり歩いた。
- 13時半二軒小屋発の送迎バスで下山した。途中B班が樫島で合流、畑薙には3時に戻って解散した。

5. 総括

普段なかなか行けない大井川の奥地で、真っ盛りの紅葉を愛でつつ雄大な景色も堪能した。しかし何よりも、大井川源流域に広がる山地から亜高山帯にかけての樹木を観察する絶好の機会になった。観察できた樹木はカエデ科だけでも16種類を数え、全体では85種類に上った。(幹事が記録できた分のみ。会員全体の記録を総合すれば、もっと多い筈。)オヒョウやヒメコマツ、チョウセンゴヨウなど、県内で行う普通の観察会ではなかなかお目にかかれない樹木もあった。好天にも恵まれ、印象に残る研修会になったと思う。



植物の新分類体系について学習。



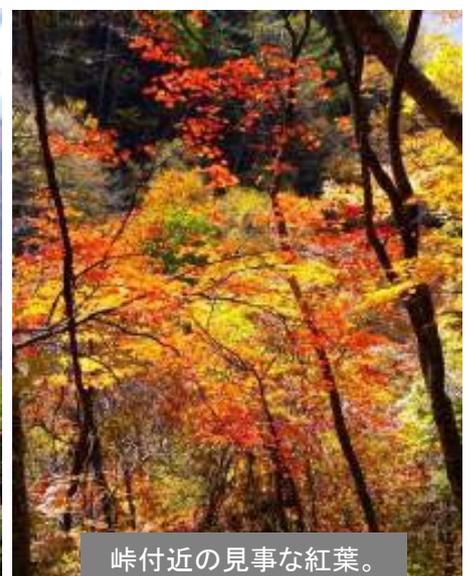
楽しい二軒小屋の食事。



紅葉が見頃になった二軒小屋周辺



転付峠に上がると、山頂に薄雪を纏った南アルプスが見渡せた。



峠付近の見事な紅葉。